

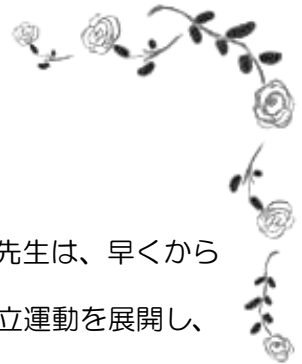


あすなろだより

2015年6月30日

発行 三重県立^{こども}小児心療センター あすなろ学園 広報担当
〒514 0818 三重県津市城山1 12 3 TEL.059 234 8700 FAX. 059 234 9361
M A I L : asunaro@pref.mie.jp U R L :http://www.pref.mie.lg.jp/ASUNARO/HP/

ご挨拶



2015年4月、あすなろが高茶屋病院から独立して30年が過ぎました。

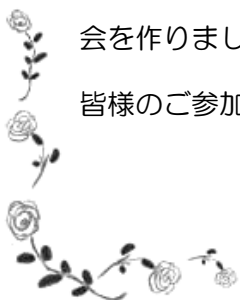
1964年1月、三重の地で日本初めての自閉症児病棟を開設した十亀史郎先生は、早くから成人精神科医療施設からの独立を考えていたようで、親の会と一緒に分離独立運動を展開し、23年後には「小児（こども）心療センターあすなろ学園」として独立、初代の園長に就任されました。しかし、独立した年の9月13日、享年54歳という若さで亡くなりました。

十亀先生の臨床は、1966年8月26日のNHK 現代の映像で「孤独な戦い」と題して全国放映され、8歳の自閉症児の治療による対人関係の変化を感動的に伝えていました。

1990年代になると、自閉症者であるテンプル・グランディンによる「我、自閉症に生まれて」と題する著書が出版され、さらに自閉症の世界への理解が深まっていきました。

そして発症率が2%を越えようとしている現代、たくさんの自閉症状を持った人たちとの交流によって、私たちはその困り感を直接聞くことが出来るようになりました。

恒例の夏のあすなろシンポジウムを7月31日に開催しますが、30周年シンポジウムとして「発達障がいの当事者からのメッセージを支援に」と題して2名のシンポジストに直接お話を聞く機会を作りました。当事者からの直接の言葉は、より深い理解を必ずもたらすと信じております。皆様のご参加をお待ちしております。



園長 西田 寿美

「こども心身発達医療センター（仮称）」の取り組みについて

前号で紹介させていただいたように、平成 29 年 6 月開所に向けて「こども心身発達医療センター（仮称）」の開設準備が進んでいます。建築設備関係、電子カルテ等の準備も着々と進んでおり、また実際の運営方法についても草の入りハビリテーションセンター、児童相談センター、あすなろ学園が各部門ごとにワーキンググループを設置し、検討しているところです。

今回は整備方針を紹介しましたが、今回は「新センター」がめざす姿実現に向け、新センターが取り組む内容について更に詳しくご紹介します。

1. 専門人材を集積し、専門性を高め、子どもにとって安全、安心な環境の中で、良質で高度な医療・福祉サービスを提供します

●遊びと見守りの空間確保、子どもの育つ力を育む

子どもたちが暮らしやすい空間や遊びの空間を確保し、動線分離を図り、治療の枠組の中で遊びやリハビリ等をとおし、課題の改善や日常生活スキルやコミュニケーションスキルを高めます。

●居室環境の改善、病院機能の向上

個室や診察室の増室により受診待ちの短縮や病状アセスメント、薬物調整、保護者のレスパイト機能を含む短期入院の受け入れなどを行います。また、それぞれの不足する機能（リハビリ、心理療法などこころのケア等）の補完や統合効果を発揮するなど、チーム医療・療育を進め、多職種が効果的に関わります。

●専門人材の集積、多職種が有効に協働

多職種が日常的に協働しやすいようスタッフルームを集約します。また、統一したマネジメントシステム等による適切な治療の進捗と地域での生活に向け、併設する特別支援学校と協働するとともに、地域や地元学校、児童相談所等と連携したケースワーク機能を充実します。

2. 小児医療との連携強化・機能補完により、利用者の利便性を向上させるとともに、小児分野の臨床経験の場や機会を創造します

●小児医療（三重病院）との連携強化、機能補完

てんかん等の合併症や小児科的な身体管理等が必要なケースは三重病院が、小児リハ、児童精神科医療が必要なケースは新センターで役割分担・連携するとともに、日常的に医師の行き来をしやすくし、子どもの状態に応じた医療を提供します。

●専門医療が日常的に受けやすい環境、利便性の向上

整形外科手術の術前術後の十分な調整や合同の症例検討・ケースカンファレンスなどを行い、円滑な連携体制を構築し、術後管理、複数科受診や緊急時の対応がスムーズになるよう進めます。

●臨床の場の創設、医師確保、専門医育成

小児分野の研修医にとって、小児に関する臨床経験が学べる小児エリアとなるよう、三重病院と連携し、幅広い専門医療・療育や複雑なケースなどが研鑽できる研修プログラムの構築や臨床の場や機会を提供します。

3. 発達支援の中核として、専門医療をベースに地域の支援機能を高め、併設する特別支援学校とともに三重県全体の総合力の向上をめざします

●スキルやノウハウを地域に還元

これまで草のりハビリテーションセンターやあすなろ学園、児童相談センターでそれぞれで行ってきた地域支援機能を一元化し、発達に課題を抱える子どもや地域の関係者に対し、チームとして効果的に関わり、臨床に基づく具体的な支援により地域支援の質・スキルを高めます。

●重層的な支援機能、総合力の向上

一次支援・二次支援は市町等で、高度の専門的支援や専門人材の育成は新センターが対応するなど役割分担しつつ重層的に関わり、途切れのない支援体制により、問題の予防・治療・アフターケアを進めます。

●教育のセンター的機能の充実

新センターの病棟や地域支援機能と連携・協働することにより、併設学校教員のスキルやノウハウなどの向上を図り、地域の学校に波及されるよう取り組みます。

●新たな機能効果を創出

臨床データの蓄積・活用、臨床現場からの情報発信機能の充実・強化、支援ツールの普及啓発、多様な機関との連携を進め、障がいの理解等を促進するなど、この立地環境を活かし、新たな効果を生み出す取組につなげます。

退職のご挨拶

～1年間ありがとうございました～

小崎 有理 医師



私は大人の外来で思春期の子ども達を見るようになったのが子ども臨床に興味を持ったきっかけでした。実際にあすなろで仕事をさせていただいて、日々様々なことを子ども達から、親御さんから、先生方はじめスタッフのみなさんから教えてもらい「本当に来てよかったな」と思う毎日でした。

ここにきて特に感じたのは、こども臨床は「未来」を作る仕事なんだな、ということ、そして子どもって本当にいろんな人に「見守られて」育つんだな、ということです。子どもは地域では親だけでなく、家族や兄弟、友達や地域の支え（地域のおじさんおばさん、保育士、教諭）があって大きくなります。「あすなろ」という場では、看護師、保育士、指導員、心理士、作業療法士、分校教員様々な職種のおとながそれぞれの得意分野を生かしチーム医療で関わり、集団の中で同年代の子ども、他学年の子どもと関わっていく中でどの子もその子なりのペースで成長し新しい「未来」を作っていました。

特に夏のキャンプでは病棟とは全く違う表情をみせ、調理活動やレクリエーション活動などにおいて自発的に動く姿、仲間と共同して活動に取り組む姿、暴風雨の中取り乱すことなく行動する子ども達を見て、子どもの環境や場面による変化、成長の可能性というものに改めて驚かされました。それと共に経験の重要性も痛感しました。子どもが順調に回復していくには、生活の安定が大事、子どもの健康な部分に目を向け、伸ばしていくためのスタッフの関わり、子ども同士が集団力動の中で学ぶこと、遊ぶことが大切だということを改めて感じました。

1年間という短い間でしたが、ここで得た様々な経験を生かし、今後も大人と子ども臨床をやっていきたいと思えます。本当にありがとうございました。

新任医師のご紹介

中村 美秀 医師



平成27年2月よりあすなろ学園でお世話になっております中村^{みほ}美秀と申します。

津市阿漕町で生まれ5歳のとき父の開業のため城山に転居し19歳まで過ごしました。慶應義塾大学を卒業し、三重県に戻り県立高校の英語講師および教員として数年働いた後、自分が中学の時に亡くなった父の職業であった医師を志して大分医科大学で学びました。平成14年に卒業、東京の大学病院の麻酔科で研修を受け第1子出産後内科に転科しました。主に循環器内科に所属していましたが、一般内科外来で小児から成人のプライマリケアにも携わってきました。第2子出産後、あるきっかけで児童精神科について学ぶ機会があり、子供を持つ身として児童精神科の重要性を知り、その需要の高さに対し専門とする医師が少ない現状をふまえて、様々な問題を抱えているお子さんやご家族の手助けをしたいと思うようになりました。

地元三重に帰り、父の病院とも関わりのあったあすなろ学園で働かせていただけることになり、丁寧にご指導いただける先生方や優秀なスタッフの皆様のもと日々精進しております。一日も早く皆様のお役にたてますよう頑張りたいと思っておりますので何卒よろしくお願いいたします。

第22回 あすなろ学園シンポジウムのお知らせ

「30周年記念シンポジウム ～地域子育て支援の更なる充実をめざして～」

日時：平成27年7月31日（木） 13時00分～16時00分（開場12時30分）

場所：三重県総合文化センター 文化会館 中ホール

基調講演：「家族と子どもに寄りそうには」

金井 剛 先生（横浜市こども青少年局中央児童相談所長 児童精神科医）

シンポジウム：「発達障がいの当事者からのメッセージを支援に」

シンポジスト：堀田 耕平（市立岐阜特別支援学校高等部 3年生）

荒田 晴紀（社会福祉法人 夢の郷 こどもライフサポートセンター はーと）

司会：西田 寿美（あすなろ学園 園長）

外来診療のご案内

*診察は完全予約制です。

都合により変更になる場合もあります。

●予約電話番号 **059-234-9700**

（予約電話
受付時間
（月～金） 9:00～12:00
13:00～16:30）

（平成27年6月1日現在）

曜日	月	火	水	木	金
1 診	中島	西田	西田	大橋	大槻
2 診	大槻	中西	石田	中西	
3 診					
4 診		中島	中野	谷口	中野
5 診			谷口 (PMのみ)		